

The 3rd & 4th Joint Conference
Sapporo Conference for Palliative and Supportive Care in Cancer

第3回・第4回合同開催

がん緩和ケアに関する 国際会議

完全同時通訳

2023.4.27 Thu. - 28 Fri. - 29 Sat.

2022年7月の開催を予定しておりましたが、開催日程を変更いたしました

事前参加登録締切

2023年2月28日(火)

<http://www.sapporoconference.com>

会 場

札幌パークホテル

札幌市中央区南10条西3丁目

参加費

医師
25,000円 事前登録 / 35,000円(当日参加)

医師以外
15,000円 事前登録 / 20,000円(当日参加)

ワークショップ受講費
~~10,000円~~ ※中止となりました。

定 員

700名

※定員になり次第、登録受付を終了させていただきます。

第3回大会長／照井 健（医療法人東札幌病院） 第4回大会長／三宅 智（総合病院土浦協同病院）

主 催／医療法人東札幌病院



ホームページ

第1日目

シンポジウム1

4.27 Thu.
08:00-12:00

オピオイドとがんの痛み:進化するその科学と実践

座長: **Russell Portenoy** (MJHS Institute for Innovation in Palliative Care, USA)

副座長: 山蔭道明(札幌医科大学)

副座長: 下山直人(君津中央病院)

基調講演

“臨床における調和”最善の臨床を通して、
利益を最大に損益を最小に

Russell Portenoy (MJHS Institute for Innovation in Palliative Care, USA)

序論

Russell Portenoy (MJHS Institute for Innovation in Palliative Care, USA)

オピオイド受容体:構造と機能、そしてその可塑性

Christoph Stein (Charité-Universitätsmedizin Berlin, Germany)

遺伝子多様性(変化性)とオピオイドの損益との調和について

Pål Klepstad (Norwegian University of Science and Technology, Norway)

科学的なオピオイド臨床応用の3事例:

オピオイド・ローテーション、突出痛への対応、メサドンの役割

Eduardo Bruera (University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA)

ランチョンセミナー1

4.27 Thu.
12:00-13:00

オンコロジーと緩和ケアの統合:その歴史と未来への方向性

Stein Kaasa (European Palliative Care Research Center (PRC),
Oslo University Hospital and University of Oslo, Norway)

座長: 照井 健(東札幌病院)

プレナリーセッション1

4.27 Thu.
13:00-17:00

臨床腫瘍学と緩和ケアの統合 - 最近の動向

オンコロジーと緩和ケアの統合:

適切な患者のために、適正な時期に適正な介入を提供する

David Hui (University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA)

座長: 佐治重衡(福島県立医科大学)

血液悪性腫瘍の根治的治療と緩和ケアの統合について

Thomas William LeBlanc (Duke University School of Medicine, USA)

座長: 小船雅義(札幌医科大学)

免疫療法治療薬に伴う免疫関連有害事象

Aung Naing (University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA)

座長: 高橋孝郎(埼玉医科大学国際医療センター)

がんリハビリテーションと緩和ケア

Jack Fu (University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA)

座長: 辻 晃仁(香川大学)

イブニングセミナー1

4.27 Thu.
17:00-18:00

緩和ケアの将来に不可欠な構成要素 - 緩和ケア看護学

Philip Larkin (Lausanne University Hospital, Switzerland)

座長: 大串祐美子(東札幌病院)

ワークショップ

4.27 Thu.
13:00-17:00

<開催中止>

ご事情によりWilliam Breitbart先生の来日が困難となり、
ワークショップは開催を中止いたします。

第2日目

シンポジウム2

4.28 Fri.
08:00-12:00

なぜ緩和ケアに スピリチュアル・ケアを組み込むことが必要なのか

座長：Christina Puchalski (George Washington University, USA)

副座長：渡邊知映(昭和大学)

基調講演

専門職連携のスピリチュアルケアにおける教育及び臨床モデル：
緩和ケアの不可欠な要素

Christina Puchalski (George Washington University, USA)

緩和ケアにおける不可欠要素としてスピリチュアルケアの統合を支援する

Vanessa Battista (Dana-Farber Cancer Institute, USA)

スピリチュアリティと緩和ケア：最新エビデンスと今後の優先課題とは？

Karen Steinhauser

(Duke University School of Medicine and the Durham Veterans Affairs Medical Center, USA)

スピリチュアル・ケア専門家から見た緩和ケア

Anne Vandenhoeck (Katholieke Universiteit Leuven, Belgium)

実存的ないしスピリチュアルな苦痛を持ちながら、
進行性や終末期の病いとともに生きる患者に対して、
スピリチュアルで思いやりのあるケアを取り入れる

Marvin Omar Delgado Guay (University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA)

ランチョンセミナー2

4.28 Fri.
12:00-13:00

医療、そして生と死における緩和ケア：その実存的意義

Sheldon Solomon (Skidmore College, USA)

座長：三宅 智(総合病院土浦協同病院)

プレナリーセッション2

4.28 Fri.
13:00-17:00

緩和ケアの臨床における実存的苦痛の要因とその影響

緩和ケアにおける実存在的问题に対するリエゾン精神医学の役割

Friedrich Stiefel (Lausanne University Hospital, Switzerland)

座長：中村健児(東札幌病院)

実存的脅威に直面する患者とのコミュニケーションについて

Peter Salmon (University of Liverpool, UK)

座長：大西秀樹(埼玉医科大学国際医療センター)

実存的に苦悩する患者はいかに臨床医に影響を与えるか

Sarah Dauchy (APHP, Centre University of Paris, French)

座長：清水 研(がん研究会有明病院)

「死と死に逝く過程」に関する医療と社会の論調とその緩和ケアへの影響について

Camilla Zimmermann (University of Toronto, Canada)

座長：中川俊一(Columbia University Medical Center, USA)

イブニングセミナー2

4.28 Fri.
17:00-18:00

グローバルな緩和ケアの発展に向けて：国際的な政策過程を介した
ケア・サービスと必須薬剤の利用促進についての提言

Joseph Clark (Wolfson Palliative Care Research Centre, University of Hull, UK)

座長：日下部俊朗(東札幌病院)

第3日目

プレナリーセッション3

4.29 Sat.
07:05-12:00

情報と伝達の技術が導入される緩和ケア (Technology-enabled palliative care)の現状と将来

座長：David Hui (University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA)

序論

David Hui (University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA)

COVID-19パンデミック後のヘルスケア領域における第四次産業革命と
メディカルデジタルトランスフォーメーション

池野文昭 (Stanford University, USA)

ヘルスケアプラットフォームにおけるインテリジェンスの強化
- マイクロソフトの見解

Keren Priyadarshini (Microsoft Asia, Singapore)

遠隔医療、人工知能、デジタル治療：

“ロボットの脅威”か、それとも“心のかもったケアの未来”か？

Mihir M. Kamdar (Massachusetts General Hospital, USA)

組織的に導入された電子PROMs評価(ePROMs)システム
COVIDパンデミック下のミラノ国立がん研究所における緩和ケア
遠隔医療への有用性について

Augusto Caraceni

(Fondazione IRCCS National Cancer Institute, Chair of EAPC Research Network, Italy)

Technology-enabled palliative careの倫理的側面

Ralf J. Jox (Lausanne University Hospital, Switzerland)

Additional Remarks

Jacob Strand (Mayo Clinic, USA)

ランチョンセミナー3

4.29 Sat.
12:00-13:00

サポーター・オンコロジー：

米国の大手がん研究所における新しい専門領域としての活動状況

Declan Walsh

(Levine Cancer Institute, Editor-in-chief of BMJ Supportive and Palliative Care, USA)

座長：西山正彦 (東札幌病院)

シンポジウム3

4.29 Sat.
13:00-17:00

安楽死・医師による自殺幫助と緩和ケア、 その本質的な議論に臨む

座長：**Harvey Max Chochinov** (University of Manitoba, Canada)

副座長：Friedrich Stiefel (Lausanne University Hospital, Switzerland)

序論

Harvey Max Chochinov (University of Manitoba, Canada)

安楽死と自殺幫助、尊厳療法の可能性について

Harvey Max Chochinov (University of Manitoba, Canada)

医師が患者の死を早める事の倫理的、法的、そして専門家の適応状況

Richard Huxtable (University of Bristol, UK)

ゴルディロックスを失い、そしてカントを殺す：

カナダの拙速なassisted death (幫助死)展開の代償

K. Sonu Gaund (University of Toronto, Canada)

医学的な死への幫助はいつが適切なのか？

Madeline Li (Princess Margaret Cancer Centre, Canada)